

子ども会安全教育



愛知県子ども会連絡協議会

目 次

冒険のすすめ	1
1 安全とは	1
2 安全教育の指針	2
3 安全管理の基本	4
4 安全会対策と事故対応	10
5 安全教育の考え方	15
6 潜在危険のチェックポイント	17
7 安全確保と再発防止	20
8 指導者の役割と責任	21
9 子ども会KYTの活用法	22
10 危険予知トレーニングのすすめ方	23
資 料	29

冒険のすすめ

遊びは子どもの社会化や人間形成にとって極めて重要なものであり、子どもの遊びは何者にもとらわれない自発的・主体的・創造的活動そのものである。

子どもがおかれている状況を整えることによって、子どもの生活に本来の意味での遊びを回復させること、生命の完全燃焼を保障するような場づくりは極めて大切なことである。われわれ大人の課題は、子どもを遊ばせるのではなく、遊ぶことの重要性について認識することと、そのための条件整備である。

冒険というと、大人は危ないということでそうした活動を制限しがちである。もちろん安全への配慮は必要である。しかしケガを恐れるあまりそうした経験を与えないことの方がもっと問題である。たくましさを育てるためには、それにふさわしい経験が必要である。

生きるとは活動することである。心身を活発に動かすことである。どんな場合、子どもの心身は活発に動くのか。それは子どもにとってやり甲斐のある活動、新奇な活動、発見・感動が伴う活動である。そうした活動は子どもにとって冒険そのものである。われわれは冒険を否定する大人ではなく、冒険を育てる大人でありたいと思う。

1 安全とは

子ども会育成者にとって、『子ども会活動』をケガもなくすすめることが、一番気になることです。そのために大人から見て、危険性のあるものを取り除き子どもたちを安全なカコイの中に押し込んでしまう…という状態にともすればもっていつてしまいます。

本当にこれでよいのでしょうか。子どもたちが『やった！』という満足感を、乗り越えたという感激を、味わうことができるのでしょうか。

ある程度の危険な体験（少しぐらいのケガ）を経ることによって、万一の場合とっさの判断と回避することを体得していくようになるのです。

そのためには、育成者全員の活動への理解を深めるとともに、次の点に留意する必要があります。

- (1) 子ども自身に「自分の安全は自分で確保する」という態度・心構えを持たせる
今は親がすぐに子どもを危険から遠ざけてしまうので、子どもは実際に危険と直面した時、その対処方法がわからない。『安全とは自分の力で危険を乗り越えていく能力』とするならば、年齢に応じた安全能力が身についているかどうか、

もしその能力がついていないならばどのように教えていくかを指導者は考えておかねばなりません。

(2) 活動中の事故をいかに防ぐか

子どもたちの年齢・体力・技量に応じたプログラムか、危険な場所や道具はないか、また指導者は適正に配置できるかなど、様々なパターンのチェックリストを作り、それに従ってプログラムをチェックすることが大切です。

(3) 事故が起こった時の対処は万全か

どれだけ準備を万全にしても予期せぬところで事故は起こります。事故が起きた時、いかにすみやかな処置ができるかによって、当事者の被害も少なくて済みますし、後々の問題になるか、スムーズに解決できるかの分岐点ともなります。応急手当、連絡方法、ケガ人の運搬可能な病院なども確実におさえておきましょう。また、安全会加入の確認も大切です。

(4) 指導者の技量にも目を向けよう

『ナイフでエンピツが削れない子ども』が話題になって、久しくなります。今でもよくこの言葉を耳にしますが、この言葉が使われだした頃の対象年齢の人は、今ちょうど子ども会指導者の年齢層になって、様々なところで活躍しています。中には、大人になった今でも、ナイフで上手に削れない人をよく見受けまます。ナイフに限らず、自分の技量はどのくらいなのか、正確につかみましよう。

2 安全教育の指針

(1) 安全能力の確保

安全教育の目標は、安全能力を身につけることにあります。子どもの安全能力は危険に出会い、その危険を克服する経験を通してつくられるものです。大人から『アレはだめ』『コレをしてはいけない』とか、企画段階から『これは危険だからやめておこう』といった消極的な姿勢では子どもの安全能力は育ちません。ですから安全教育は、子ども会の活動プログラムが充実することと相まって初めてその目的も達成できることになるのです。

(2) 冒険へのチャレンジ

『こわれそうだなあ』『でも登ってみたいなあ』と子どもは、一本の木を見た場合にもチャレンジへの欲望があります。これが活動への始まりであり、一人で登ったときの喜びや自信が成長するステップなのです。したがって子ども会活動には、冒険的なものが必要であり、子どもたちは小さな冒険から大きな冒険へと少しずつ挑戦し、それを乗り越えていく経験を通して安全能力を高めていきます

(3) 安全教育の視点

『この活動は安全か危険か』という問いは重要なことですが、子ども会にとって最も重要な問いかけは、『この活動は子どもの人間的成長にどのような意味を持っているか』ということです。活動の必要性が認識されれば、次は安全対策の検討準備が続くものです。このように子ども会の安全教育は、子どもたちが自らの力によって安全への確保・配慮ができるようにすることであり、指導者・育成者の立場からすればそのための環境整備が必要になってくると言えます。

(参考例)

事故の誘因・4つの注意

- ①環境（場・道具・交通機関）
- ②服装（プログラムに適した）
- ③心身の状態
- ④無知・無謀

3 安全管理の基本

一 般 留 意 点	<p>*子ども会の行き帰りの交通安全に留意 *準備運動・整理運動の徹底</p> <p>*活動に適した服装と履き物で参加 *実施前、実施後の人員点呼の徹底</p> <p>*救急薬品の準備 *傷害事故が発生した場合は報告書を</p>
-----------------------	--

	育成者・指導者自身のために	子ども達に対しては
実 施 前	<p>こんなことぐらい知っているだろう、話さなくてもいいだろうという、安易な判断が思いがけなく事故を招く。</p> <p>心臓疾患や特異体質の子については、行事の種類に関係なく事故が想定されるので、あらかじめ親や子ども自身から聞いて知っておく必要があり行事当日には特にその体調に気を配っていくこと。必要に応じて医師の診断結果に従うことが大切である。</p>	<p>わからない点や、はっきりしないことについては、しっかり理解できるまで話しておく。</p> <p>『してはいけないことは、絶対にしない』ということを守らせる。</p> <p>心臓疾患や特異体質の子は、自分の体調に十分留意させるとともに、そうした子ども達に暖かい心で接し、励まし合うようにする。</p>
実 施 中	<p>行事の引率者や指導者だけが安全の点検をするのではなく、子ども達自身にも気づかせ、考えて行動できるような指導をする。</p> <p>病気や体調について、具合が悪くなったら直ちに連絡する習慣と、平素から子ども達が何でも相談できるような雰囲気をつくっておく。</p> <p>万一事故が起きた場合、子ども達を冷静にさせ事故の処置を早くする。種類によっては、たとえ小さな事故でも直ちに専門医の治療を受ける。</p>	<p>一人ひとりが、自分の安全に気をつけると同時に、仲間の安全に気を配りお互いに注意し合うようにする。</p> <p>病気や体調の具合が悪くなった時は育成者や指導者の人に早く正確に届出ることを習慣づける。</p> <p>万一事故が起こった場合、育成者や指導者に従い、冷静に機敏に行動するように日常から指導しておく。</p>
実 施 後	<p>行事の詳細な記録をとっておいて、次回実施する場合の参考資料とする。</p>	<p>必ず反省会を持ち、意見を出し合い次回はもっとよりよい行事になるよう話し合いをさせる。</p>

点 險 ・ 確 認 の ポ イ ン ト

— 指導者・育成者の自己管理は？ —

- ① 昔とったきねづかとか、あれくらい
のものを、と云う心。（自信過剰）
- ② 良いところを見せてやろうと誇らし
げになるとき。（自己誇示）
- ③ 急に力をつかったとき。心と体の準
備不足。（準備運動の不足）
- ④ 疲労をかくして無理をしているとき。
（過 労）
- ⑤ 服装がその運動や行事に適していな
いとき。

— 指導者の心がまえ-5- —

1. 指導者の責任を自覚せよ
（綿密・周到・沈着・決断・
自然条件の分析と変化の予測）
2. 活動の準備、安全への配慮は十分か
3. 規律の確保につとめ、全員を確実に
掌握せよ
4. 活動は、基礎的なものから応用的な
ものへ進めよ
5. 個人および集団の健康状態に注意せ
よ

— 使いなれない施設での注意-5- —

1. 着いたらすぐに非常口の確認
2. よく磨かれた大きなガラスに注意
3. 廊下・階段ですべらないように注意
4. 扉の開閉に注意
5. 風呂の熱湯に注意

— 救急処置の原則 —

- ① 何をなすべきか、何をしてはならな
いかを落ちついて考えよ
- ② 出来るだけ速かに医師に連絡せよ
- ③ ショックの予防、大出血止血、呼吸
停止には人工呼吸（マウスツーマウス
法をせよ）
- ④ 判断に迷うときは、大事をとれ

金子連発刊

「冒険と安全のための

チェックポイント」より

■ 野外活動と安全についてのチェックポイント



■ 野外施設現地調査

施設調査項目 ()	
◎実務連絡担当者名	
1. 野外施設について ① 野外炊事場() 所 有・無 屋根 有・無 ●かまど 形式・数 ●水道 有・無 蛇口数 ●調理台 有・無 台 ② 便 所() 所 ●男用 小・大 数 ●女用 数 水洗式・汲取式・仮設 ③ 旗ポール 有・無 ④ 照明設備 有・無() 所 ⑤ 屋根つき集会所 有・無 () 所 広さ() ⑥ テーブル、ベンチ 固定・移動() 所 ⑦ ゴミ処理方法 ⑧ 火焚き場 可・不可 指定・指定無	●炊事用具の借用 はんごう 無・有 無料・有料() なべ 無・有 無料・有料() やかん 無・有 無料・有料() ナポリタンク 無・有 無料・有料() ポリバケツ 無・有 無料・有料() その他() まき 炊事用 質(難・易)1把 円() CF用 時間分 1セット 円()
	●食糧調達 センター仲介・業者直取引 () 調達方法() 支払方法() 配送時間 さまっている・依頼により自由
2. 施設に関して(施設利用のルール) ●資料 施設 無・有() キャンプ場 無・有() ハイキング・コース 無・有() オリエンテーリング 無・有() 歌 集 無・有() ●到着時オリエンテーション 無・有() 分 ●起床 時 分 合図 無・有() ●消灯 時 分 合図 無・有() ●施設職員 管理者 名(うちテントサイト関係 名) 指導専門職 無・有 名 (種目:レクリエーター・自然史) 保健婦 名 () ●施設内使用 1. 食堂:不可・可(同時利用定員 名まで) 朝食 無・有 () (円) 昼食 無・有 () (円) 夕食 無・有 () (円) 申込方法 () 2. 売店:不可・可 時 分~ 時 分 主な購買品と価格 () 3. 入浴:不可・可 時 分~ 時 分 浴室・シャワーのみ(料金) 同時利用可能人員 名 シャワー数 () 予約方法() 4. 集会室:無・有 不可・可 無料・有料() 予約方法() 利用時間帯 時 分~ 時 分 用途() 収容人員() 貸出備品() ●野営資材の借用 テント 人用 無料・有料 張() 人用 無料・有料 張() 人用 無料・有料 張() 毛布 無・有 無料・有料() (枚数 あたり 枚)	3. 野外プログラムに関して ●登山コース 無・有() コース 所要時間() 距離() 路線交通() ●O.L.コース 無・有 所要時間 ポイント数 シルバコンパス貸出 無・有() O.L. マップ貸出 無・有() ●ハイキング・コース 無・有() コース 所要時間() 距離() ●野外ゲームエリア 無・有() ●集会のひろば 無・有() ●野外ステージ 無・有() ●C.F.サークル ケ所 使用時間() 使用予約 不要・要() 4. 安全・管理体制 ●職員巡回点検 無・有(1日 回) ●外出時許可 不要・要(時 分~ 時 分) 届出方法() ●立入禁止区域・危険区域 無・有、表示 無・有() 理由() ●救急体制 施設外救急機関 無・有 病院名() 連絡法() 連絡法() 所要時間() 深夜の救急態勢と方法 () ●荒天その他の緊急避難場所 無・有 場 所() 収容人員() ●外部との連絡方法 事務室・売店・公衆電話 利用時間()

■ 安全チェックシート

ソフトボール練習		チェック
チェックポイント		チェック
○ 服装はよいか	1. 体操服・運動ぐつ・帽子など。	
○ 用具はよいか	1. ボール・バットは規定にあっているか。	
	2. キャッチャーマスクはあるか。	
	3. バットのグリップ・グローブの破損はないか。	
○ 広場はよいか	1. 広場に危険物はないか。	
	2. 各ラインは正確に引かれているか。	
練習前に	1. 各選手の体調を確認したか。	
	2. 各ゾーン使用時の注意事項・禁止事項の説明をしたか。	
	3. バットの素振りは定められた場所であることを伝えたか。	
	4. スライディング時の注意を与えたか。	
	5. ベースは固定しないということを守っているか。	
	6. キャッチャーマスクの着用を義務づけたか。	
	7. 選手同士の衝突をさけるための注意を与えたか。	
練習中に	1. 軽いランニングを行なったか。	
	2. 準備体操を行なったか。	
	3. 低学年に無理のないような方法を講じたか。	
	4. 途中でミーティングを兼ねた休憩をもうけたか。	
	5. 練習時に指導者・育成者は広場のまわりにも気をくばったか。	
練習後	1. 整理体操を行なったか。	
	2. 危険なプレイについての注意を与えたか。	
	3. 各選手の体調を確認したか。	
	4. 往復途上の交通安全に注意したか。	
○ 留意点		
※ 救急薬品の準備をしよう。		
※ 事故の場合の緊急連絡先(もよりの病院・診療所など)の確保をしよう。		
※ 事故が発生した場合は市町村子連事務局・市町村子連役員へすみやかに連絡のこと。		
※ 事故報告書を提出のこと。		

■ 安全チェックシート

ハ イ キ ン グ		
チェックポイント		チェック
○ 服装はよいか		1. 長そで・長ズボン・帽子・くつなど。
○ 持物はよいか	団	1. こども会旗・班旗は持っているか。
	体	2. 救急用具・ハンドマイクは用意しているか。
	個人	3. 雨具・水筒・安全カード・ごみぶくろ・三角きん・軍手（木綿）・タオルなど。
出発前に	1.	人員点呼はしたか。
	2.	メンバーの体調を確認したか。
	3.	交通ルールの説明はしたか。
	4.	一応のコースの説明をしたか。
	5.	各班のリーダーは決まっているか。
	6.	各班のリーダーにコースの地図または目的地への順路休憩地点などの記入したものを持たせたか。
	7.	緊急の連絡方法（体制）はできているか。
	8.	人員点呼は必要に応じて行う体制になっているか。
	9.	天気予報の確認をしたか。
ハイキング中	1.	メンバーの健康状態はよいか。
	2.	メンバー全員が行動を共にしているか。
	3.	途中での参加人員の確認はできているか。
	4.	無理のない歩き方ができているか。 （低学年・足の弱い人が前になっているか。）
	5.	グループから離れている者はいないか。
	6.	前後の確認などの安全対策はとれているか。
	7.	各自のゴミは始末できているか。
	8.	育成者・指導者は周りに気を配っているか。
休憩中	1.	メンバーの健康状態はよいか。
	2.	トイレの確認はできているか。
	3.	生水は飲んでいないか。
解散時	1.	人員点呼はしたか。
	2.	参加者全員の健康状態を確認したか。（病気・ケガなど）
	3.	帰路の交通安全の注意をしたか。
○ 留意点		
※ 救急薬品の準備をしよう。		
※ 事故の場合の緊急連絡先（もよりの病院・診療所など）の確保をしよう。		
※ 事故が発生した場合は市町村子連事務局・市町村子連役員へすみやかに連絡のこと。		
※ 事故報告書を提出のこと。		
※ 現地調査を行い危険場所は調べてあるか。		
※ 天候急変の処置について考えているか。		
※ リュックサック・ナップザックで参加しているか。		

4 安全対策と事故対応

(1) 安全対策

安全教育と安全対策は表裏一体のものです。いわゆる安全教育が立派に行われているならば、確かに事故は減少することでしょう。しかし、活動をする限りにおいて何らかの事故は発生するものです。

これらの事故の発生を防ごうとするものが安全教育であるとするならば、安全対策は直接事故との関連に重点を置いて行うものといってよいでしょう。

これには直接事故の発生を想定しながら、事故発生時または、その後の処置をどのようにするかを考えましょう。

ア 安全の確保…環境の整備、調査 安全能力のトレーニング

イ 事故対策……応急の救急体制（救急法などの技術習得）

安全会の加入（見舞金・保険制度の導入）

(2) 事故発生時の処置

ア 被害者に対する措置

事故の程度に応じて人命救助、健康保全のため必要、適切な処置をとること

イ 医師、消防署、警察への通報

『いつ、どこで、だれが、どうしたか』報告し、『いましなければならぬことは何か』指示をうける

ウ 病院に対する措置

事故の状況に応じて適切な病院を選ぶこと

エ 現場保全と記録を確実に

現場写真の撮影、事情聴取、凶面の作成、証拠の保全、証拠隠滅の防止
（目撃者の住所、氏名など第三者の立合い）

オ 利用施設に対する措置

施設の管理者に対して事故の状況を報告、説明をする

(3) 応急手当

急病やケガをしたとき、現場ですぐに正しい応急手当が施され、病院へ運ばれた人は回復も早いとのこと。日頃から、最低必要な応急手当をマスターしておきましょう。

出血

水道の水で土や砂を洗い流して清潔なガーゼをあてる。

止血法(1) 直接圧迫法



止血法(2)

直接圧迫法で止まらないときは出血部より心臓に近い止血点を指または手で骨の方に圧迫する。



日射病



涼しい風通しのよい所にねかせる。

衣服をゆるめ、頭を冷やし、冷たい飲み物を与える。

貧血



衣服をゆるめ、足を高くする。

骨折

骨が折れているかどうかの判断は、①腫れる ②形が変わってくる ③皮膚の色が変わってくる ④動かしたり、その部分に触れたりするとはげしい痛みがある ⑤動かせなくなる ⑥ひどいと折れた骨の端が皮膚を破ってとび出し、出血することがある。…などから。

骨折しているかどうかかわからない時は、骨折していると考えて手当をしておくこと。

ア 骨折部を安静に

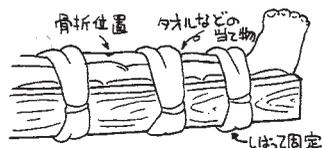
イ 副木をあて、動かないように固定

ウ 副木をあてたあとと血行障害を行すこともあるので約30分おきにしばり具合を調べる。

エ 痛みのはげしい部分を冷やす

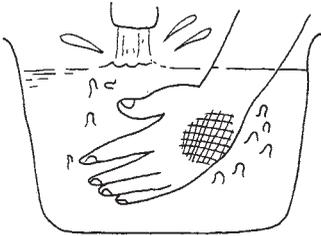
オ 傷のあるときは、傷口を洗わず、清潔な布やガーゼをあてる。

突き出ている骨は押しこまないように。



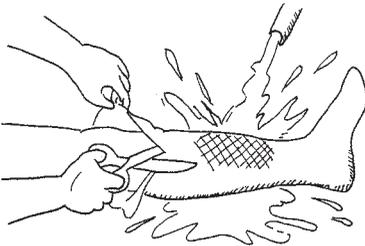
やけど

- ① 受傷部位に水道水をかけ続けて受傷部位をじゅうぶん冷やす。
熱の作用によって皮膚に変化をきたすので一刻も早く冷やすことが治りを早くする。



- ② 直接水道の蛇口から水をかけるときは水疱や、はがれかけた表皮を損傷しない程度の強さに水を調節する。

- ③ 衣服の上から熱湯をかけた場合は、衣服を1秒でも早く皮膚から離す。



水疱を破らないように注意!

冷却時間

- ① 冷やす時間はできるだけ長い方がよいがやけどの程度によっても変わる。
② 一般に軽症の場合は、最少限度10～20分くらい。
③ 受傷範囲が広く重症の場合は、何時間も冷却を続けますが最低30分～2時間くらい冷やすことが必要。
④ この場合小児や老人では体温の調節に注意しないと風邪をひかせることになるので注意が必要。

受傷部位は水で冷やしたままで清潔に保ちながらできるだけ早く病院につれて行き、一般の方はいじらない方がよい。

うちみ、骨折の兆候による判断と応急手当

手と足	<p>皮フが青くなっている場合は、皮下出血、骨折のある場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患部を冷湿布。 ・はれがひどく痛みのはげしい時は、医師へ早急に。
頭と胸	<p>目、鼻、口、耳などからひとすじでも出血があれば重症、吐き気、失神も……。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽いと思っても安静にして医師へ。 ・息が止まったらすぐ人工呼吸をすること。
腹	<p>直後は元気でもしばらくして急に倒れることもあります。軽いと思っても内臓損傷の可能性もあるので医師の診察を。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水平に寝かせる。 ・飲み物、とくにアルコール類は絶対に与えない。 ・吐く場合は、からだを横に向けて、窒息しないようにしましょう。

(7) 救急箱の中味

A どんな小さな救急箱にも必要なもの。

器 材	ハサミ、ピンセット、綿棒(ヨウジ代用してもよい) 筆記用具、メモ、鉛筆	
ホウタイ材料	ホウタイ〔4裂(号) 6裂(号) 8裂(号)〕 ガーゼ、救急バンソウコウ、脱脂綿(キズ口につけないこと) バンソウコウ(テープを代用してもよい)、三角巾	
薬 品	外傷用消毒薬	消毒薬
	内服薬	頭痛・解熱剤

B さらに入れてあると便利なもの。

器 材	体温計、毛抜き	
ホウタイ材料	ホウタイ止、油紙、眼帯	
薬 品	外 用	70%消毒用アルコール(手指消毒、器具消毒) 湿布剤(ゼノールなど)、抗生物質軟コウ(すり傷、ヤケド、おでき)、 抗ヒスタミン軟コウ(湿しん、じんましん)
	内服薬	乗物酔い防止薬

C 備えつけ用として入れておくと便利なもの。

器 材	大型ハサミ、舌圧子(スプーン)	
ホウタイ材料	布バンソウコウなど	
薬 品	外 用	ホウサン(2%液として洗眼、湿布に使う) 亜鉛華軟コウ(軽いヤケド、おでき、皮膚炎)
	内服薬	解熱剤、歯痛止剤、健胃剤、整腸剤、緩下剤
	眼用薬	軟コウあるいは点眼剤

一 救急箱の注意 一

救急箱は、いざというときに、本当に役立つように、つねに整備されていなければなりません。手持ちの救急箱をいま一度点検してください。

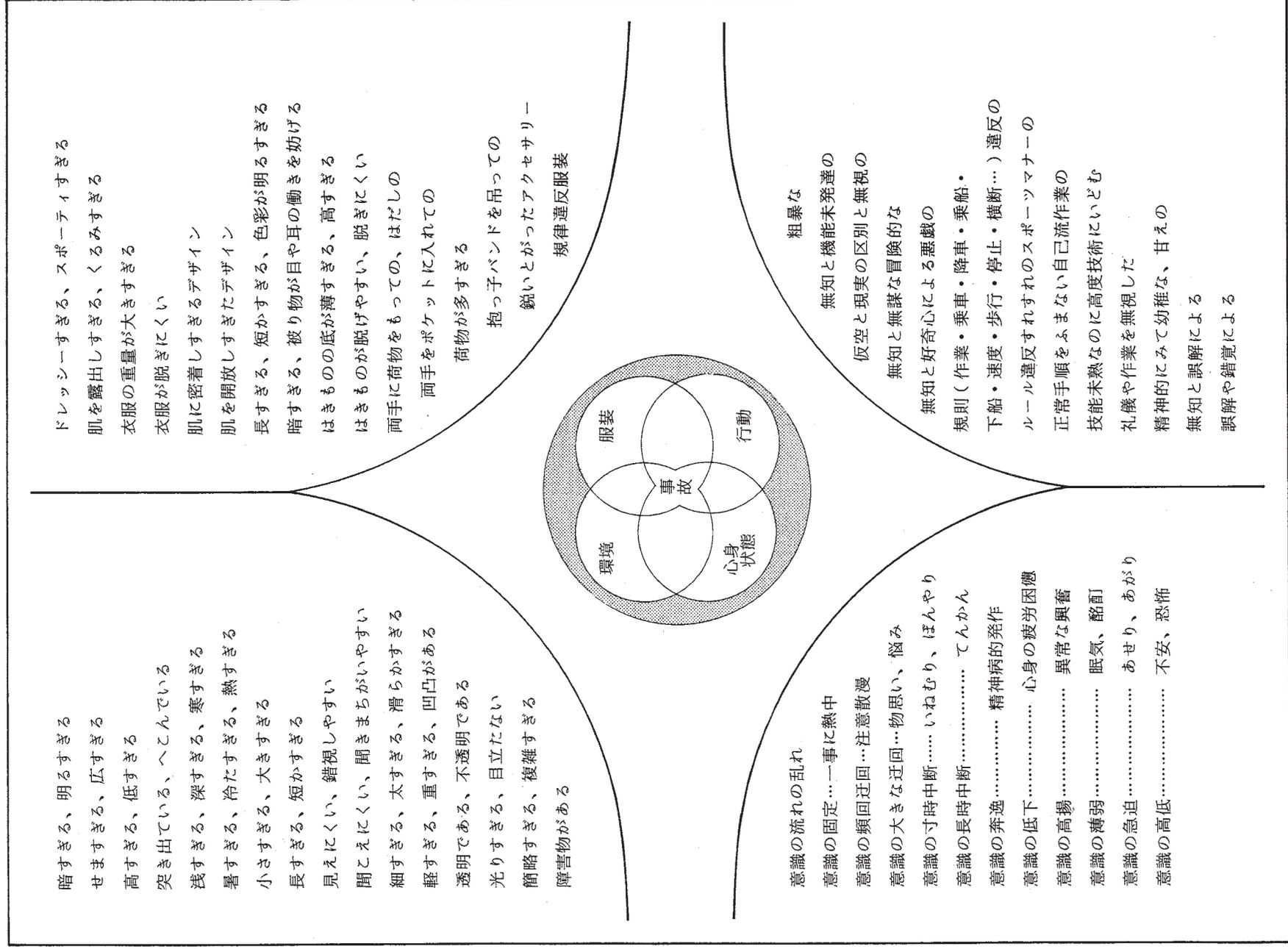
5 安全教育の考え方

「1人1人の安全能力を伸ばすために」

安全指導	知識	<ul style="list-style-type: none"> 潜在する危険を予知、予見、予測することができる 事故は何故おこるのか、事故の原因をよく理解し、正しい判断のもとに、これらに対処することができる
	技術	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容に運動技能が適合しているか、技術に適合した指導をする 実際に体験し、経験をつむ 生活技術の点検をする
	態度	<ul style="list-style-type: none"> 進んできまきまを守り、安全に行動ができる 自分の行動が仲間や集団全体に及ぼす影響を考えることができる 今何をするときなのか、自覚することができる
	習慣	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣【食事（偏食をしない）・睡眠（早寝早起き）・排泄（健康管理）・着脱衣（自分で出来る）清潔（ハンカチ、はなかみ等）】の確立をする
	日常生活	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活の中に、身体活動（ラジオ体操等）をとり入れる 基本的な生活習慣をとりもどすための活動をする 家庭内活動を含めた地域全体活動としての生活運動を推進する 活動の前後に活動に適した準備運動、整理運動をする
子ども会 子どもの安全確保	行事活動	<ul style="list-style-type: none"> 年齢・能力に合わせたスポーツ大会を推進する 年齢・能力に合わせた役割分担を推進する 精神的・身体的能力の増進を図る

子ども会 子どもの安全確保	安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 計画準備における安全点検 <ul style="list-style-type: none"> 参加者の年齢や能力に応じたものであるか 集合場所・活動場所（往復途中を含む）は、事前に充分調査ができたか 指導体制や役割分担が明確にされ、一貫した指導指示がとれるか 子ども会員の心身状態、行動、服装、及び環境等事故につながるものはないか 計画が参加者、保護者、関係機関等に周知徹底されているか 子どもの要求する行事であるか 実施時における安全点検 <ul style="list-style-type: none"> 往復途中での交通安全指導をする。 KYTの実施 参加者の健康状態、服装や携帯品を確認し、仲間の安全にも気を配るよう指導する 注意すべき点、ルールや心得をしっかり守らせる 集合、解散時等必要に応じて人員、体調などの確認を行う 活動中においては、全体的監視体制を確保する 生命の危険に直面する場合は躊躇することなく中止する 計画（予定）変更の場合は、充分話し合い適切な方法をとる 反省時における安全点検 <ul style="list-style-type: none"> 自分だけでなく仲間の安全にも気を配れたか 事前に決められた事が守れたか 危険を感じた時の対処の仕方は適切であったか 安全指導、安全対策は適切であったか 指導書（子ども会活動の振興と安全・冒険と安全のためのチェックポイント等）を基に研修させて実践的なアドバイスをしていく 子ども会KYTの活用について話し合う
	事故対策	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生時の対応の仕方を予め定めておく（連絡方法、救急病院の確認） 応急処置としての救急法を習得する 救急箱を準備する
子ども会 子どもの安全確保	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 全国子ども会安全会加入の確認をする【県子連安全会（見舞金＋賠償責任保険）】 安全カードを携帯する

6 潜在危険のチェックポイント



(参考例)

こんな時こんな事故が！



—「安全教育ノウハウ」(全子連)より—

7 安全確保と再発防止

事故が起きてしまった場合、不可抗力であったとか、運が悪かったための事故であった等の受け取り方をしやすいものですが、そうした受動的な係わり合いではなく、潜在危険を予知・予測し主体的に対処する能力が必要なのです。

そのためには事故発生の要因を整理し、それに応じた安全教育を行うことが必要です。

いったん起きてしまった事故は貴重な体験として二度と起こしてはならない努力が必要であり、また他の子ども会の事故であっても情報とし間接体験としてとらえ事故要因を追及し、これを除去することが肝要です。

それには事故の状況をできるだけ詳しく記録保管し、今後の対応について全員で検討し事故防止に努めることが大切です。

事故状況について

○転倒して、骨折をした

- ┌ 物にひっかかった……事前に取り除くことができなかったか。
 │ 目に付きにくいものであったか。
- └ 滑った……………地面が滑りやすくなっていなかったか。
 │ 靴が滑りやすいものではなかったか。

- 本人の不注意……ふざけて歩いていた。(指導者に誤りはなかったか)
- 他に気をとられていた。
- 寝不足であった。
- あわてていた。(プログラムに無理がなかったか)

以上、ほんの一例であるが、原因を詳しく把握することによって今後の事故再発を少しでも軽減していきたいものです。

8 指導者の役割と責任

指導者は子ども会活動において、可能な限り事故を防ぐための方法を講じなければならないが、同時に事故ばかり恐れて実施する活動やその進め方が消極的になってしまい、その結果子ども会活動の目的を忘れることがあってはならない。

指導者は常に指導者としての自覚を持って責任を果たさなければならない。また役割の分担も明確にし、相互の連携が密に図られるように努めなければならない。

子ども会指導者は善意のボランティアとして活動しているが、その責任においては、他の場合と何ら異なることなく、道義的責任はもちろんのこと、事故のケースによっては法律上の責任を伴うものである。

(1) 道義的責任

子ども会指導者として、また成人として、どんな場合でも道義的責任が伴うことは当然である。

(2) 法律上の責任

子ども会活動中に不幸にして事故が発生した場合、それぞれのケースによって法律上の責任は異なるが、法律上の責任には、大きく分けて次の二つがある。

ア 民事責任は民法等に基づくもので、事故によって実際に発生した被害者の損害を賠償し、私人の間の関係として被害者の救済を図るものである。

イ 刑事責任は刑法に基づくもので、違法な行為により社会の秩序を乱したことについて社会的な制裁を加えるという、社会に対する責任であり、一定の行為（犯罪）に対して国が行為者を処罰し、犯罪への対応とその予防、行為者への応報とその予防、行為者の矯正を狙いとしている。

○法律上の責任と、事故の原因の関係について大別すると、次のとおりである

(ア) 指導者に責任がある。

- a 指導者の故意が原因となるもの
- b 指導者の過失が原因となるもの

(イ) 指導者に責任はない。

- a 不可抗力が原因となるもの
- b 被害者自身の不注意が原因となるもの（指導者に故意、過失がない場合）
- c 被害者自身が危険を承知して参加しており、やむを得ないもの（指導者に故意、過失がない場合）

(ウ) 指導者が施設の設備・管理者である場合は責任がある。

施設・設備の不備（瑕疵）が原因となるもの

9 子ども会KYTの活用法

子ども会KYTは、子どもたちの学習意欲・危険予知能力を引き出す安全教育材料として、子ども会関係者をはじめ、多くの方々に喜ばれているものです。

○ひろく活用される子ども会KYT

子ども会KYTは子ども会だけではなく、他の社会教育団体や学校などでも広く活用されています。例えば、学校では交通安全指導に、遠足や林間学校、または修学旅行の事前学習に子ども会KYTが活用されています。

○KYT（危険予知トレーニング）とは

子ども会KYTは、産業界における危険予知トレーニングをもとに考案されたものです。KYTは、毎日の産業過程において注意を怠ると災害につながる点をイラストにより事前にチェックする目的で作成され。現在は毎日の作業前に今日の仕事に対する心構えを作り出すねらいで「みんなで、早く、正しく」というゼロ災害運動方式のKYTへと発展してきたものです。

○子ども会でのKYT

楽しい子ども会活動の中にも『危険』が隠れています。楽しい子ども会活動も一度事故が起きてしまうとつまらないものになってしまいます。事故防止の第1歩は、『危険』を知り、特に『潜在的な危険』を発見し、あらかじめ安全に対する心構えをもっておくことが重要です。

子どもたちは、『危険予知』『危険回避』能力の点でいくつかの課題があります。直接体験が不足しているため、活動のなかで潜在的な危険を発見し、それを回避する力が衰えているのです。

そこで、子ども会でもKYTを用いて活動にどのような危険が潜んでいるのかを予知し、子どもたちの危険予知能力を高め、危険を回避する力をつけていく必要があるのです。

○子ども会KYTの活用

子ども会KYTは、研修会だけの学習だけでは、実際の活動と結びつかず、効果が上がりません。活動の前だけに行うのでは、時間がかかりすぎて活動の時間が短くなるといった状況があります。また、KYTを行う意義も理解されないこともあります。

KYTの意味を研修会でよく理解し、活動の前にも必ず実施することが真の安全確保につながります。

○KYT 4ステップと9ステップ

危険予知トレーニングには4ステップ（P23～参照）と9ステップ（P38参照）の2通りのやり方があります。4ステップは初めてKYTを行う指導者等にやってもらい、KYTは安全教育に必要なだと理解してもらいます。また、子どもにも研修会等でKYTを行い安全教育の大切さを理解してもらいます。

9ステップは4ステップの上級編で、KYTを経験したことのある指導者に進めてもらいます。4ステップと異なる箇所は、危険箇所を分類別に絞りこみをし、その対策を考えるとことです。

10 危険予知トレーニングのすすめ方

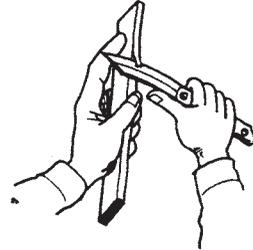
みんなで考えよう 危険予知トレーニングシート例

1. KYTとは

安全を確保するにはまず、“危険を予知”することができなければ、その“危険を回避”することはできません。そこで産業界では、イラストシートを使って、

- ①危険を発見し
 - ②あらかじめ対策を考え
 - ③立てた対策を一人ひとりが守るように
 - ④注意を呼び起こすトレーニングを
- 永年の間、各職場ですすめてきました。これを危険予知トレーニングの頭文字をとってKYTと略称しています。

つまり「全員参加でチームワークや感受性を高め、みんなで危険を発見し、対策を考え合い、わかり合って実行する」といったねらいで多くの職場で実践され、相当な成果をおさめてきました。



どこがあぶないかな？
(状況)

新たなみナイフを使って工作をしています。

2 KYTのすすめ方

(1) KYTの特色

- ① 指導者が一方的に“注意”を指示するのではなく、子ども自身が具体的な問題として考える仕組みになっている。
 - ② ゲーム的要素があるので興味がわく。
 - ③ 興味が持てるので、話し合いが活発になる。
 - ④ 小集団活動の促進とグループワークの実習になる。
 - ⑤ 注意力がうながされ、危険に対する関心が高まり、具体的な安全教育になる。
- などがあげられます。

(2) 4ステップですすめるKYT

〔準備〕

- ① イラストシート（グループ分）、模造紙（各グループ2枚）、マジック（黒・赤）（黒板、白ボクでもよい）を準備。
- ② 1グループを10名前後とする。
- ③ 役割分担 リーダー、記録を決める。
- ④ 時間の配分 各ステップごとに何分かけるか、特に何項目程度出すかなど決めておく。
- ⑤ トレーニングの趣旨の説明 はじめて行なう場合には、なぜ行なうのかをわかりやすく説明する。

第1ステップ

模造紙1枚目

シートNO	グループ名
第1ステップ	
1	○○なのでXXになる
2	○○してXXになる
3
4
5
6
}	
15

第2ステップ

シートNO	グループ名
第1ステップ	
①	○○なのでXXになる
2	○○してXXになる
③
4
⑤
6
}	
15

第3ステップ

模造紙2枚目

シートNO	グループ名
第3ステップ	
①	○○なのでXXになる
1
2
3
⑤
1
2

第4ステップ

シートNO	グループ名
第3ステップ	
①	○○なのでXXになる
1
②
3
⑤
1
2
第4ステップ	
(グループの行動目標を)	
スロ・ガン化する	
○○とXXして○○しよう	

◎ 気を付けること
○ 特に気を付けること

- ⑥ 話し合いの進め方説明 プレーンストーミングの4原則を活用：・他人の発言を批判しない ・発言は質より量 ・自由に発言 ・他人のアイデアを加工して発言

子どもにはわかりやすく、・全員がどんどん発言 ・議論はしない、させない
・気がついたことを遠慮なく発言するなど

KYTの4ステップとは

第1ステップ どんな危険がかくれているか…………… (危険の発見)

- ① リーダーがイラストシートを見せて状況を読み上げる。
- ② メンバーはその状況の中に自分をおいて、危険の要因を発見し「～して～になる」「～なので～になる」というようにどんどん発言する。
- ③ 記録係は模造紙または黒板に要点を個条書きにする。
- ④ リーダーは全員に発言をさせる。特に物の問題だけではなく人の行動の危険発見をうながす。
- ⑤ 時間内にできるだけ多く発見するようにする。

第2ステップ これが危険のポイントだ…………… (特に重要なものは)

- ① 模造紙に書き出された項目を順に読み上げて確認する。
- ② 特に「みんなの関心の高いもの、重大な事故の可能性のあるもの」に◎印をつける(2～3項目にしぼり込む)。
- ③ 全員起立して◎印項目を指差し「危険のポイント××, ××, ヨシ！」と唱和する。

第3ステップ 私ならこうする…………… (具体的な対策をたてる)

- ① ◎印を付けた重要な危険要因として「予防したり防止したりするのに」一人ひとりがどうしたらよいか考えさせる。
- ② 「私ならこうしよう、こうすることが必要だ」と実行できる対策を出させる。
- ③ 一つの◎印に2～3の対策を考え、「グループとしてこうすべきだ」という共通の行動内容の対策を考える。

第4ステップ 私たちはこうする…………… (みんなで実行する行動目標を決める)

- ① グループとして「必ずしなければならないこと」を重点項目として決め○印をつける。
- ② ○印は1～2程度とし、その項目をスローガン化し行動目標とする。「～を～して～しよう」といった具合。
- ③ グループ目標を全員起立して指差し唱和する。

以上が1回の手順ですが、初めのうちは大体1ステップ当り10分～15分を見ておきます。回を重ねるにしたがって時間を短縮していき、全体で20分～30分でできるようにするとよいでしょう。

危険予知トレーニングシート⑮

みんなで考えよう



どこがあぶないかな？

(状況)

五連発の打上げ花火を上げようとしています。

危険予知トレーニングシート⑯

みんなで考えよう



どこがあぶないかな？

(状況)

みんなそれぞれ竹トンボを作るのに夢中になっています。

(金子連「こうしてすすめよう！子ども会KYT」より)



どこがあぶないかな？

(状況)

みんなで川あそびをしています



どこがあぶないかな？

(状況)

球技大会をしますところです

(やる前に、どんな危険があるか考えてみよう)

★この頁に限り、作者の了解を得ていますからコピーをとってお使い下さい。

伊藤 昭彦



どこがあぶないかな？（状況）

キャンプ場で食事のしたくをしているところです

今回は三重県四日市市で実際に使用したシートを掲載します。（小林 名美）

